

4840

(號)

三

七

號



定

主務局長大臣

受領出受出受出受

明治 明治 明治

年 年 年
三月廿三日
年六月廿五日

局長 局長 局長

成

決

大臣

件 番 受
名 監 領

梅二龍牙九〇号
工兵庫
受領出受出受出受

關



委

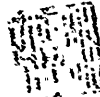
次官

参事官

主務課長



主務課長



主務課員



高級副官



主務副官



主計



長 課 帶 聯



者 記 筆 案 審

受 領

高田少将より陸軍省に送る書状
陸軍省

本年二月頃香分七二一年より以て以来、少将
少将より陸軍省に送る書状、精國軍用電信
線引進の関に於て、本改進追加の
統制府の通函及び長官より、異在の旨を同令
書に記す。

陸軍省 送達 満發第一二一八號

三月七號

少将より陸軍省に送る書状、
二條の経費の通函の約算
上二箇の通函を参考として
扱ふべき。

陸軍省 兵務



陸軍省 受領 滿貳乾第 九〇

統通計乙第七三六号

明治三十九年三月十五日

統監府通信管理局長池田十三郎

陸軍次官 辰本新六殿



韓國軍用電線引続事項追加
關之客月二十八日付滿貳
七五六號
八之書
無之候



事件、對スル照會回答ハ必ズ存書記出納
記入相成リシ

三月十五日

0620



三月廿八日 浦友第 七五七号 軍用電信線
引継事項追加、件 伝号 受取存ナシ

次官 宛 發信者 管 匯 長

電報譯 三月十九日 午前九時四十分發

三月十九日

第一號



陸 軍

二五七九

三月十九日

1620

陸軍電信用紙

局 着		局 發			所名人信受	
印 附 日	技 手	受 字	受 分	第 日	第 局	
		分	字	分	日	
<p>4. 1. 3. 7. 2. 3. 5. 8. 2. 1. 4. 6. 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.</p>					<p>定 指</p> <p>事 記</p>	
					<p>所名人信發</p> <p>番 號</p> <p>第 號</p>	



陸軍部 第二三九號

兵站總監 第五六八號第一

明治三十八年十二月八日

陸軍大臣寺内正毅殿

兵站總監侯爵山縣有朋

陸軍部 第二四號

富

十二月九日

170

新義州ニ鉄道監部 建築班ノ設置アリ 又
 邦人ノ移住スルモノ日ニ増加シ 従テ通信所
 ラ設置スルノ必要有之 茲ニ付 同所及黃州
 通信所ニ於テ 未ル三十九年一月一日ヨリ 軍用
 通信ニ差支ナキ限リ 公衆通信ノ取扱ヲ開
 始スル 様致度

陸 軍

0793

丁

<p>主務課長 工電第四三師 民國六年十二月九日 十月十日</p>	<p>裁</p>	<p>大臣 陸軍部 兵站總監部 兵站總監部 兵站總監部 兵站總監部 兵站總監部</p>
<p>聯帶課長</p>	<p>主務課長</p>	<p>文官</p>
<p>聯帶課長</p>	<p>主務課長</p>	<p>主務課長</p>
<p>審察筆記者</p>	<p>主務課員</p>	<p>主計</p>

通信大臣御照會案

韓國新義州及黃州軍用通信所に於て
未ル世九年一月一日より軍用通信ニ差支テ
限リ公衆通信取扱ヲ開始致度
總務省に於て是等事
在及

陸軍省 滿發第九七五二號

十二月十二日



陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省

二月十五日

滿洲軍 七 號

局長

課長

課員



局長ヨリ韓國駐劄軍參謀長へ回答

永興灣要塞虎島地区ヨリ新島大島ヲ経テ葛麻浦半島ニ至ル海底電線新設ノ儀付テ甲第三號申越ノ次第モ有之候處有事ノ日ニ於テハ固ヨリ相當ノ詮議可有之筈候得共今日特ニ新設ヲ急クハ必要モ無之ト被存且目下ニ於テ布設船ノ都合モ難相付候ニ付當分詮議不相成候間右様御業知相成度

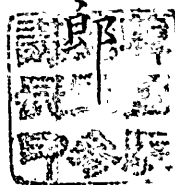
陸軍



三十七号 三月十日

明治四十年二月七日

韓國駐劄軍參謀長牟田敬九



陸軍省軍務局長宇佐川正敏

陸軍省軍務局長 宇佐川正敏 謹啓



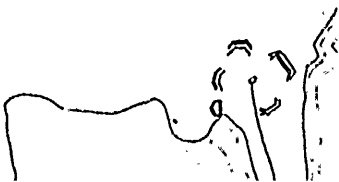
奉

去年十一月各要塞會議，節永興港

要塞副官多申此，誤要塞通，現狀

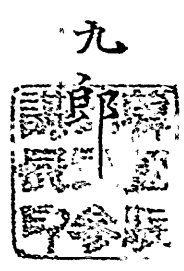
別紙報告書，通，且別紙，通申

請，未，何，台，詮議，相，成，度，申，進，也



陸
原

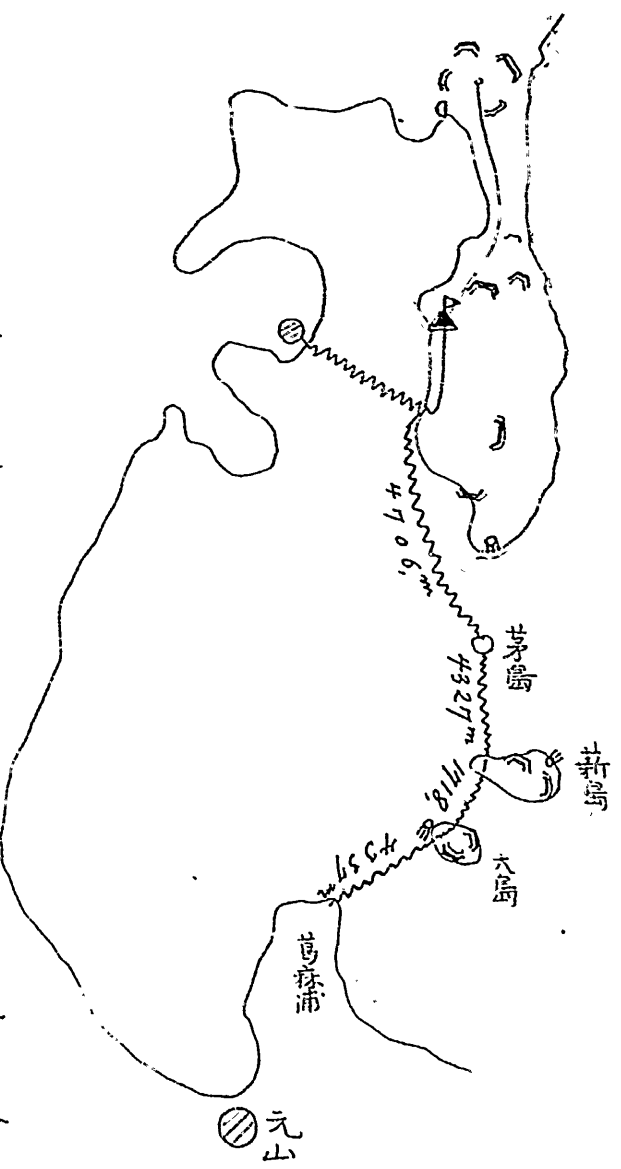
節永興
信綱現
寫通申
中進也



岩
之
驛第

参
画

海底線所要延長一萬五千八百米
約八哩二町



4620

寫

8620

明治四十年一月三十日

永興港要港員大佐土居源市

韓國駐劄軍參謀長 牟田敬九郎殿

西島塞通信網現狀報告

當要塞新島及大島、右島若陸上ノ通信線ハ

虎島方面ト左様ニ永久的加設アリト雖凡司各部

所在地虎島ト連絡スル海底線ナク平戰兩時不便

敷カズ且現時應用セル虎島元山間ノ通信線路中

虎島松田間ノ海底線ハ海軍ニ於テ沈没セルモノ、

一部ハ四心電線ノ心ヲ借受ケタルモノニシテ將來戰時

永興港員大佐 土居源市

壘

壘

一 彌海峽線トシテ虎島ヲ新島大島ニ至ル線路ヲ延長
 シテ葛麻平島ニ揚陸シ尚葛麻元山間ノ陸路ヲ新設ス
 ハ比較的難儀ナル通信網ヲ構成スルヲ得ヘシ又虎島ニ新島
 間ノ海底線ヲ中間ニ於テ茅島ニ揚陸スル線路ノ故障ヲ指
 示シ止メ且ツ障碍巨額ヲ短縮シ以テ神助通信法ノ施行
 ヲ容易ナラシムル事案ニシテ一月十九日消工部二部ノ申請ハ
 前途ノ如キ通信網不備ナル新島大島方面ニ至ル線路ヲ
 新設スルモノニ有之候

右前案要案通信網ノ一奇現状報告候也

便

T080

明治四十年一月十九日

永興港務局令 佐 源 市

韓國駐劄軍司令官 曹長谷川好道 殿

永興港務局 工 第 二 号

當要港局司令部ヨリ新潟及大島方面ニ至ル間ハ當時南信
 及糧食運搬船ノ寄港ル外他ニ交通ニ何等ノ機関無之
 戰時ニ於テハ指揮其他ノ兵ニ於テ困難ヲ感シ又平時ト
 雖諸般ノ不便少ク尙且間處信處該并ニ務請ヨ有スル
 為ノ四心入海底線ヲ布設シ平時ニ於テモ電訊通信ヲ設

陸 軍

致度利氣通者島間ノ巨島取調候ニ付御布致相成度
此段及申請候也

遂テ布致ノ間ニ費用不明ニ付豫算不流ノ間ニ取調相成
度尚三十七八年戦役間ニ於テ海軍水雷布致艇ニテ虎島
葛麻間海底線沈布ニ二日間ヲ要セシ様算及注条為念
申添候也

別紙

通信上必要ナル各島間巨離調査書

自虎島

自茨島

自新島

自新島

自大島

自大島

自大島

自大島

四千七百〇六米突

四千三百二十七米突

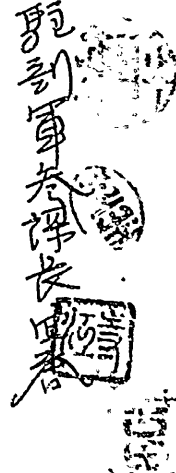
千七百十八米突

四千三百三十七米突

但巨離海底線ヲ沈布スル目的ヲ以テ調査セシメノニシテ、カ、ブ、ラ、ン、ク、ン、ナ、リ、

2083 404

局長 韓國駐劄軍務課長 栗



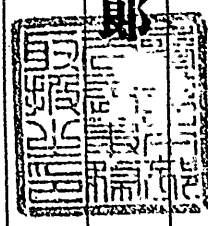
永興海軍要塞虎嶋地居ヲ新嶋大嶋ヲ控テ
葛麻浦半嶋ニ至ル海空電線ヲ設ケ儀ト付
先ニ甲才三平ヲ申裁、次才ニ有ニ至テ、
難有事、日、於テ固ヲ有ルノ詭議可
有ニ至、至得共ニ今日特ニ設ヲ急ク
必要ニ無之ト被存且目下、於テ布設船ノ
都合ニ難ト付、付多分詭議不成立
ト右様承知ト有

參謀本部次長事務取扱男爵兒玉源太郎

二月廿七日

明治三十九年二月廿七日

陸軍次官石本新六致



二月廿六日附滿者第七二一號
云々韓國軍用電信線引継ぎ
協定云々項云々加件素存
世々

陸軍

9080



主務局長 大臣

受領出受 裁 決

明治 明治 明治 明治

年 年 年 年

二月廿四日

聯帶局長

主務局長

參事官

次官

件 名 韓 國 軍 用 電 行 保 守 迄 冬 前 行 進 之 関 係 件

指ニ乾才九〇号

應名 工兵隊

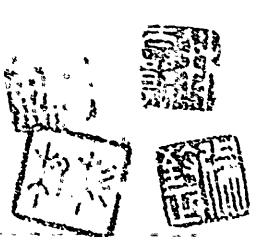
Handwritten notes and stamps on the right side.



聯帶課長

主務課長

高級副官



審案筆記者

主務課員

主計

主務副官

Vertical text on the right side.

經案第一九一號

次長官 奉復書 外務省 事務印

照會書

韓國 軍用電信線 引渡 之 関シテ 兼ニ 世後 済ニ
有リ 知 該 引 渡 関 係 協 定 事 項 二 尚 未 左 記
事項 追加 ノ 事ニ 取 付 度 并ニ 外 務 省 意 見 呈 示
致 上

(左記 外務省)

七二一

一月一日

(右記 外務省)

以 右 事 宜 迄 今 尙 無 行 管 理 事 宜 照 會 書

韓國 軍用電信線 引渡 之 関シテ 兼ニ 世後 済ニ
一月 丙 亥 卯 二 八 六 号 ヲ 以 テ 乃 在 國 際 法 義 知 該 招

奉復書
事務印

少印部

一 招後済二

一 高木左記

意見多き

二月

了照存集

事已竹本年

多可起談招

本竹、工多印也、美涼本印
活字部也、楓澤印

工多印

8080

定事項ニ尚ホ左記ノ条改追加ナリニ改改

追加異存無シ并此三十九年豫算算成ナリ

当者豫算内ヨリ金出抜八万六千九百先抜是四

千追加者ニ移算ノ事ニ大礙者ニ依候方

取斗下ハクナ

二月廿八日

以右ヨリ追加出費下追加集

韓国軍用電信線ヲ統管府用信付作理引継

関ニ據在事改ニ尚ホ追加ノ事ニ并々有字ノ旨

該局長照会ヨリ旨以て其旨ニ依り

朝鮮總督府 第七五六號

三月廿八日



追加條項

一、左記架設計画中ノ線路ニシテ三月盡日迄ニ竣工セ
 ンルモノハ軍部ニ於テ架設ヲ継続シ竣工ノ後チ之ヲ
 引継クモノトス

二、江界、長津、江上浦、惠山鎮、茂山嶺間
 軍隊屯在地ノ新設変更等ノ為、電線架設ノ必
 要ナル場合ニ於テハ統監府通信管理局ハ駐劄軍司
 令部ノ要求ニ應ズルモノトス

陸

軍

朝鮮軍用電信線引継ニ関スル收定

韓國軍用電信線引継ニ関スル收定
事項

- 一、韓國內ニ於ケル帝國陸軍ノ管理ニ属スル軍用電信線ヲ現ニ使用シ居ル器具機械等ハ廳中島陸軍省ヨリ通信省ニ引継ク
- 二、前項引継ニ関シテハ在韓國軍用電信機關ノ管理ノ長ト同通信省通信機關管理ノ長トノ間ニ於テ財産目錄ニ照シ受授ノ手續ヲ了スル此財産目錄ハ陸軍省ヨリ通信省ヘ引継シ證スルモノトス

- 三、電報傳遞順序ハ軍事通信ヲ先ニシ公衆通信ヲ後ニス但ニ在韓國陸軍最高官憲ニ於テ差支ナシト認ムル軍事通信ハ此限ニアラス
- 四、戰時又ハ事變ニ際シ通信輻湊ノ為軍事官報ノ速達ヲ期シ難キ虞アルトキハ通信省ハ陸軍省ノ要求ニ依リ或ル回線ヲ特定シテ軍事官報専用ニ供スルコト
- 五、戰時又ハ事變ニ際シ陸軍ニ於テ電信線路ノ新設若ハ回線變更ノ必要ヲ認ムルトキハ通信省ハ陸軍省ノ要求ニ依リ之ニ應スルノ設備ヲ

又ヨリ

工電自録第五〇號

韓國電信引継ニ関スル追加條項

- 一、通信所専用、建物ニシテ陸軍、所管ニ屬スルモ、及其他電信業務上ニ使用、建物ニシテ左支ナキモノ之ヲ統監府通信官署ニ引継クコト
- 二、現在該電信業務ニ従事セル人員内陸軍省雇員、全部及通信省ヨリ配屬ノモノニシテ統監府ニ採用スヘキモノ該電線引継ト同時ニ、統監府通信官署ニ引継キ其他ノモノハ之ヲ同省ニ復歸セシムルコト

主務局長大臣

受領出提領受

明治九年一月廿四日
明治九年一月廿四日
明治九年一月廿四日

聯帶局長

裁

決

大臣

件 辭 受

名 號 領

農省 滿貳 九〇 號

廳名 五島厚

朝鮮軍用電信線牙達冬前引進ニ関スル件



次官



高級副官



主務副官



參事官

主務局長



主務課長



主務課員



聯帶課長



審案筆記者

送

取

滿人受第八〇號

宛二月廿五日

以
五島厚

次官、統監府通信管理局長、田中兼

韓國軍用電信線、別由指定事項、據り、當者ヨリ通信者へ可引継指降濟ノ如ク般同國電信
係事、業務全般事向ニ未移リ、然ラ、右軍
用電信線、前指定事項ニ據り、當者ヨリ直接
費用、引継々々、別由指定事項、據り、當者ヨリ直接
本指定事項ノ外更ニ左ノ事項、據り、別由指定
トシテ、別由指定、取計、事、是又、別由指定、事、
及

(左記)

一月廿三日

本件、送答、商通行、吾、記、台、長、
通、行、者、通、行、台、長、及、各、領、事、長、
等、三、名、者、向、右、ノ、指、降、濟、事、
有、之、事、

韓國電信引継ニ関スル追加條項

- 一、通信所専用ノ建物ニシテ陸軍ノ所管ニ屬スルモノ及其他電信業務使用ノ建物ニシテ差支ナキモノハ之ヲ統監府通信官署ニ引継ラコト
- 二、現在該電信業務ニ従事セル人員ノ内陸軍省雇員ノ全部及通信省ヲ配屬ノモノニシテ統監府ニ採用スルモノハ該電線引継ト同時ニ之ヲ統監府通信官署ニ引継キ其他ノモノハ之ヲ同省ニ復歸セラルコト

陸軍

一月廿五日

宗臣有秀得在在宗臣事歸以折國許
案

韓國軍用電信係引使、國之政府官、通使
宗臣、通使、吾部、通使、及、官、友、自、自、自、
之、通、加、幸、理、之、能、不、夫、之、自、直、力、取、計、一、有
宗臣

陸軍省
文書
二八六
號

一月廿



韓國軍用電信線引継ニ関スル收定事項

- 一、韓國內ニ於ケル帝國陸軍ノ管理ニ屬スル軍用電信線ノ現ニ使用ニ居ル器具機械モ、廳中品ノ陸軍省ヨリ逋信省ニ引継クコト
 - 二、前項引継ニ関シテハ在韓國軍用電信機關ノ管理ノ長ト同逋信省通信機關管理ノ長トノ間ニ於テ財產目錄ニ照シ受授ノ手續ヲ了スコト
- 此財產目錄ハ陸軍省ヨリ逋信省ヘ引継ラ
證スルモノトス

三、電報傳送順序ハ軍事通信ヲ先ニ公衆

通信ヲ後ニス但ニ在韓國陸軍最高官憲兵
於テ差支ナシト認ムル軍事通信ハ此限ニアラス

四

戰時又ハ事變ニ際シ通信輻湊ノ為軍事

官報ノ速達ニ期シ難キ虞アルトキハ通信省

ハ陸軍省ノ要求ニ依リ或ル回線ヲ特定シテ

軍事官報ノ専用ニ供スルコト

五

戰時又ハ事變ニ際シ陸軍ニ於テ電信線路

新設若ハ回線變更ノ必要ヲ認ムルトキハ通信

省ハ陸軍省ノ要求ニ依リ之ニ應ズルノ設備ヲ

スル

六

逋信省ニ於テ韓國ニ於ケル幹線タル電信電
 話線ノ新設及回線ノ變更ヲサントスルトキハ
 豫メ陸軍省ノ同意ヲ得ルコト

七

戰時又ハ事變ニ際シ陸軍ニ於テ韓國内ニ於ケ
 ル逋信ニ對シ檢閲ヲ為スル必要アリト認メ又韓
 國內ニ於ケル逋信取扱上ニ制限ヲ加フル必要アリ
 ト認ムルトキハ逋信省ハ陸軍省ノ要求ニ依リ之
 ニ應スル手續ヲサント但シ事急ニ要シ本文ノ手續
 ヲ為スルハ豫メ場合ニ於テハ在韓國陸軍省最
 高官憲ニ般電報取扱ニ關シ一面陸軍省
 ヲ經テ逋信省ニ要求シ一面在韓國逋信省



八

通信機關管理之責。其管轄範圍如下
 陸軍：於軍務關係行政。及傳上之通信機關
 電報總局：架設之要路。及通信省。同意を得
 于其所管之電報。之聯絡。及最密寄電信
 局所之方引。之得。但事急之要。同意
 之得。猶豫。其實施。同時。之通報
 又ルコト

九

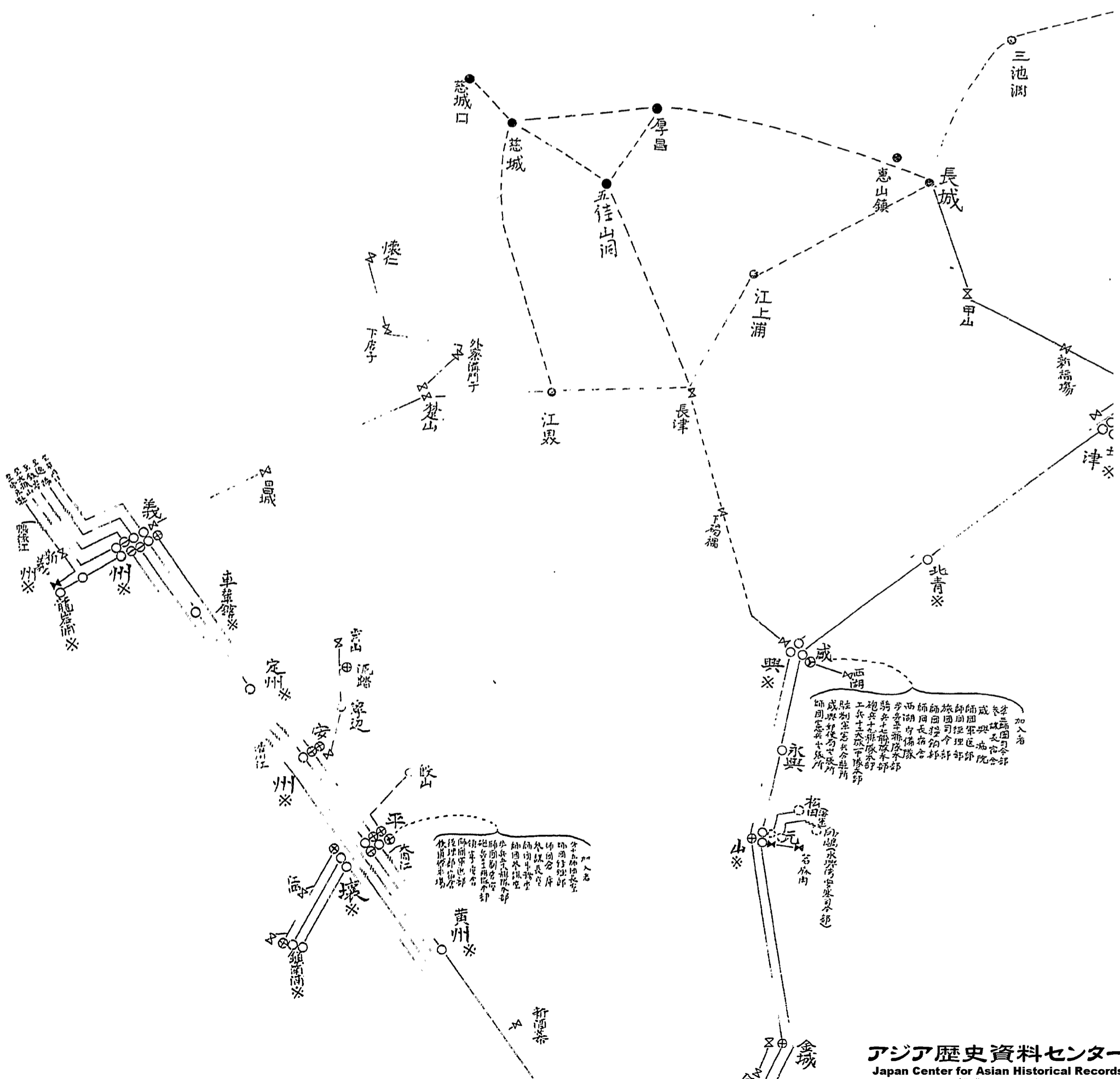
在韓國陸軍官憲相互間及在韓國陸軍
 官憲下在滿洲陸軍官憲下間。之
 電報。之當分。内然。之無料トス

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	<table border="1" data-bbox="608 443 975 741"><tr><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>1</td><td>2</td></tr></table>	3	4	1	2
3	4				
1	2				
分割撮影 した 理由	A 3判以上のため				
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>11 年 5 月 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者</p> <p>上野英樹  </p>					

韓國電信電話回線圖

明治三十一年一月未日調

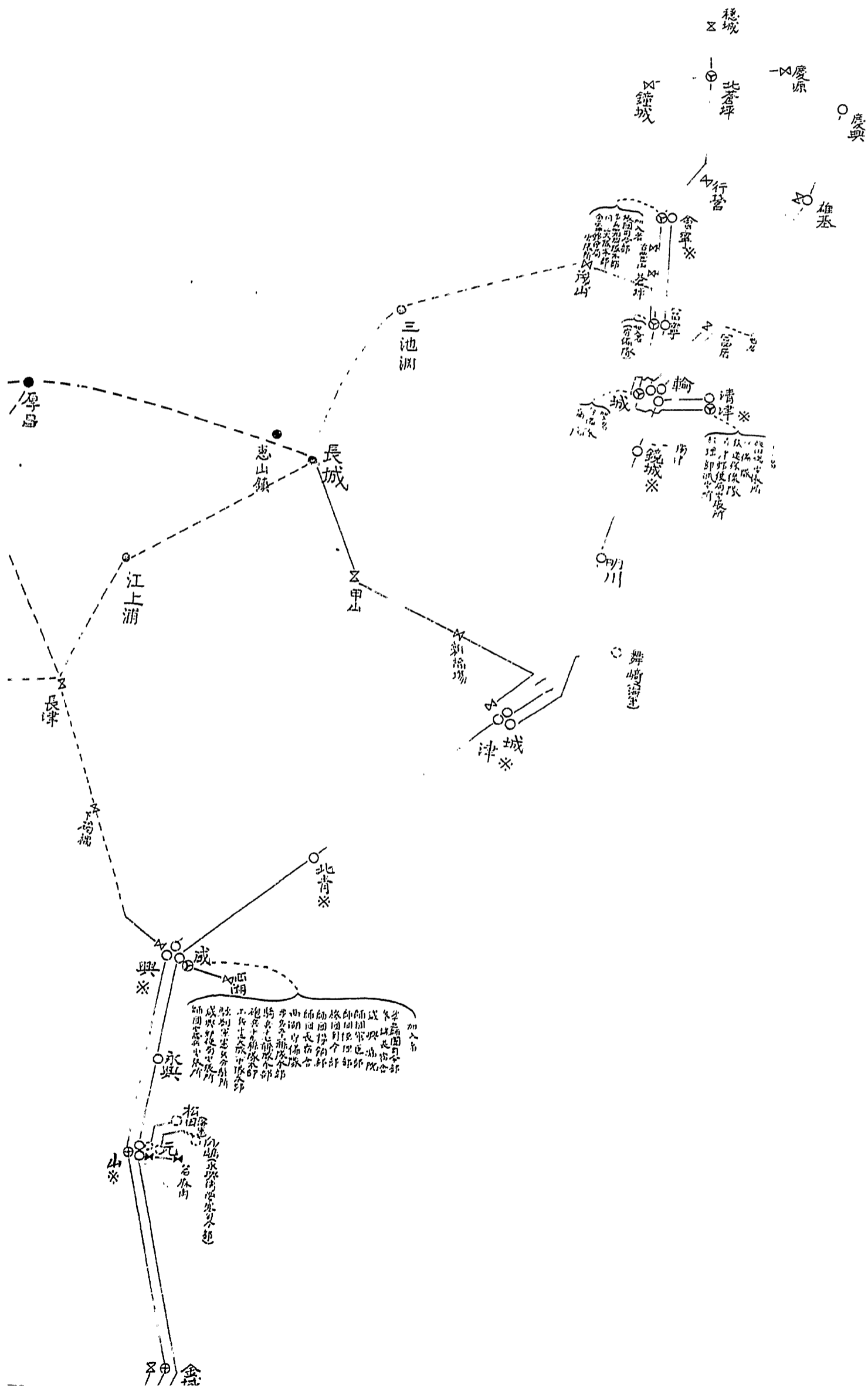


0824



韓國電信電話回線

明治三十一年一月未日調



0826

房官了	臣領	人領	課領	得領	務領	主領	裁	決	査	件	附	受
署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署
署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署
署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署
署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署
署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署

通任大臣：少申進案

韓國內に於ては野戰郵便業務ヲ貴者へ引
 継ぎ給ふに白通第3694號 回差に依り未だ
 通取計且つ韓公駐劄軍郵便部所屬
 人負つ別紙に通貴者へ復歸する
 屬せしめ何此中申進也

通大木呈地致高寺部使部身服部通所
 事外友補の進者、帰還したは異存なき
 又右の通に於て 函外軍 総兵隊交通部能
 任事通任の友補野嶋博村為友氏
 之通身令致し 水又部公駐劄軍部

郵便部 甚勤被命之其官氏名通
部之改令申候事

(左記)

通行奉務友補 服部 正一郎

右 大本營 野戰 高等 郵便部 附シ 免ス

通令奉務友補 野崎 淳

右 滿洲 軍 總 兵 隊 交通 部 郵便 吏 シ 免シ 大本營
野戰 高等 郵便部 付シ 命ス

(右記)

ハコヒ

九月廿日

兵部 兵學 申 封 通 (但し 傷 年) シ 除ク

辭令 補 以
大本營 (四)

長印名通

部正一郎

免ス

嶺 惇

兄 大存堂

九月廿二日

夕除ク



辭令の補任は、
大存堂(圃)迄
送付す

工名 存

0831

0832

入
兵部経略入道降記
修下位通叙ソ修下記
工云深



明治三十八年九月十九日

兵站總監侯爵山縣有朋
陸軍大臣寺内正毅 取

明治三十八年九月十九日

九月十九日



韓玉内、於先軍中郵便業務ヲ通信者へ引
継ノ付、関シ滿奉第七八一六号招議ノ極
書共ニ其存多ク、其ノ旨向、訓令シ且韓玉駐
劄軍郵便部所屬ノ人員ハ其ノ内、通シ渡
向者ハ轉屬セシ、其ノ為同軍郵便部ニ右引
継ヲ終ルニ後、編制上依然存存ス、付現任郵便

部長以下渡内ノ上ノ郵便部長及主任郵便使
吏各一名ノ如高ノ者ヲシテ兼務セシムル標席信
者ハ照合ヲ成度

通シ大巾急野戦高寺郵便部附通信子
船長補服部正一市通信者ハ渡内ノ上ノ満
阿部總兵治交通部郵便使通信子船長
補野岸博ヲ其後任トシテ命課授ヲ成度

郵便部長	一	
右任郵便吏	六	通信者一渡帰
野戦郵便吏	三三	
郵便監査	一	
高等郵便吏	一	韓正駐劄軍兵部兵部
右任郵便吏	一四	増員トシテ抄属
野戦郵便吏	三〇	
野戦郵便吏	八	遼東兵部(補充トシテ抄属)
野戦郵便吏	一	光軍兵部(補充トシテ抄属)
野戦郵便吏	二	光四軍兵部(補充トシテ抄属)

大 本 營

0837



Handwritten notes in the top right corner, including the characters '到' and '任'.

工南白... (Vertical text on the left side of the document)

九月十二日 (Date stamp in a rectangular box)

馬 (Large handwritten character)

藩二申才七五三号... (Main vertical text on the right side of the document)



兵站總令、以招復集

韓國內ニ旅先野隊新便業務ヲ漸次進行者、
 引健方ニ因シ海分四五ニカ五ヲ以テ先
 謀長ヲ考者、中州ノ各隊ニ依リ、進修
 大厚ノ招復并処分、自ラ國令有ク、
 至急其向ハ訓令ニ依リ、各隊招復
 進テ、各隊進修、各隊招復、
 招復ノ件、其在世ノ各隊、取計ヲヘク、

陸軍省 滿發第七八二號

九月十日

(大回々々々々々々々々)



別案の通達

通達大長、中下通達

韓国内、旅々几野孫郵便業務の漸次増大に
引継、至三月四日三六九四号回各二休、其意
に通達、取中書、付、通達

追々追書郵便業務古補の増大に、功課せし
ムル件、其在也、其、取中書

(服部事務古補の増大に、功課せし
事、補任、其、取中書)

(軍工)

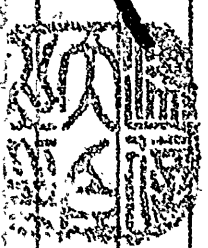
通第三六九四號

九月六日

九月七日

滿人受筆の文號 九月十日

南支那第七一九九號ヲ以テ韓國内
 野戰部便出業務ヲ本省ヨリ引越シ
 件一考存子之ニテハ引越シテハ
 劉軍部交款及韓國通商子
 務管理、長相互協隊、上級業
 務ノ引越ヲ爲シ九月七日ヨリ全
 務ヲ了スルコトヲ決定スル旨
 電報通達相成度此旨及回
 答の如也
 〇にテハ子ノ旨
 悉行至之ヲ備當武



陸軍少佐高野の日記

止り舞國 詔別 年一日 日記
高野少佐 友部 原史 トミシラ 大本 以己
野 友部 高野 少佐 友部 原史 日記
務 友部 補服 部 正 一 高野 少佐 友部 原史
日記 友部 原史 日記 友部 原史 日記
日記 友部 原史 日記 友部 原史 日記

0842

未結

軍部
之
計
保
護
官

印



浦二坤第七五三號

兵次總監部

韓國内野外郵便業務ヲ遂行者ハ引継ノ件

行



端日元四七五号

八月廿日



官印

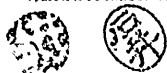
逋信大臣、待協議案

韓國国内ニ於ケル野戰郵便業務ヲ別紙ニ
條項ヲ以テ貴省ニ引継致度異存無之
候得者右引継ノ期日豫知致度此段及引継候
也

近テ韓國駐劄軍ニ配属シアル現在負
郵便吏、草等友ニ名出任友二十名、親
便夫八十名、他ノ軍ニ要スル増多若
ハ補欠ニ充用可致見込有シ此方
会申添付也

陸軍省 滿發第七一九九號

八月廿二日





陸軍部第四五九二號

八月十七日

八月十日

明治三十八年八月十日

兵站總監部參謀長大島健一

陸軍次官石本新六殿

兵站總監部參謀長印

韓國內、於ケル野戦郵便業務ヲ漸次
進信者へ引継方、関シ滿費第六。
九三號總監宛照會、趣了素右ハ
別紙ノ条項ヲ以テ進信者、協議相成
様致度

進テ韓国駐劄軍、配屬シテ現在員郵

七

本

警

韓國（龍岩浦及城津以北ノ地ヲ除ク）ニ於ケル

郵便事業ハ左ノ條件ノ下ニ進信者ニ引

渡シ一切同者ニ於テ施設執行ス

一 野戰郵便ノ機關及業務ハ總テ撤廢ス

二 軍事上必要ノ郵便施設ニ関シ韓國

駐劄軍ヨリ請求アルトキハ進信者ニ之

ニ應スル設備ヲ為ス

三 韓國駐劄軍ト郵便機關トノ連絡ヲ

保持スルカ為メ進信者ハ各普通郵便

局ヲ指揮監督スル機關ヲ京城ニ設

大
本
附

置ス

四、韓國駐劄軍司令部：郵便吏高

等官及判任官各一名ヲ置キ軍司令

官指揮監督ノ下ニ兼テ大本營野

戰高等郵便長ノ指示ニ依リ軍事郵

便ニ関スル事務ヲ取扱ハシム該郵便

吏ハ韓國在勤ノ通信者官吏ヲシテ

兼務セシム

五、郵便施設集配事務ノ執行及監

督ニ関シ軍事上必要ナルトキハ軍ヨリ

相當便宜ヲ與フ

六、郵便物保護ノ必要上請求アルトキハ軍

ヨリ護衛兵ヲ出ス

七、各軍ニ對スル軍事郵便直接交換局

ソ京城、新義州、元山及城津トシ其

受持区域ヲ左ノ通定ム

交換局名 各 局 已 域

京城局 大同江以南及全城以南ノ地

新義州局 大同江以北ノ地

元山局 全城北青間(全城ヲ含ム)

城津局 北青城津間(城津及北青ヲ含ム)

八、郵便物ハ軍事、普通ヲ論セス又小包トモ

七 本 巻

九、
 總テ 軍用鉄道 及 軍用船舶 ニモ 搭載ス
 軍人 軍属 以外ノ 者ニ 軍事 郵便 ノ 差
 出 及 軍事 郵便 為替ノ 振出 シ 許 可セス

0850

未結

丁卯年夏

物二仲月七五三

立証迄多

名 重村、重村、新重村野戰郵便局ニ於ケル考問郵便取扱停止

重

普通郵便局

法二五三六九所

新重村郵便局

港日牙四七五

七

七





七月八日



出 局 印



着 局 印

本郵便局
不方
大正九年

正統元年
 午儿等回部使取抵原止

正統元年
 正統元年

本朝集年書及附
 所方...
 大正...



0851

以達案

(印刷敷用)

高登

号

韓國 義州、安州及新義州郵政郵便局ニ於て
普通郵便并為換事務ノ取扱ハ明治三十八年
七月三十一日限り之レヲ廢止ス

朝鮮國 義州、安州及新義州郵政郵便局ニ於て

普通郵便并為換事務ノ取扱ハ明治三十八年

七月三十一日限り之レヲ廢止ス

朝鮮國 義州、安州及新義州郵政郵便局ニ於て

普通郵便并為換事務ノ取扱ハ明治三十八年

義州 安州 新義州

六月 七月

普通郵便

印刷数(甲)

戦後郵便局ニ於て
此ハ明治三十八年

傳書

七國郵便通郵便
郵便便局ノ郵便
正書第几ノ郵便

兼分
安分
新分

七國郵便通郵便

六月十五
六月十七
七月一

通代者共五通

六月十五
六月十七
七月一
共五
共三
共一

0852-2

先以可也

此後の事
三島

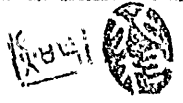
以古了無站後冬、以起存業

治中四五二号力二申指あり、韓國軍物、安物及
郭多物郵致部使ら、此れ凡韓國郵使系、おる者
事務廢止、云々本月三十一日限、廢止、有、可也
此而之、韓國內、郵致部使業務ニシテ軍事上
之支ナキモノ、漸次、逐次、者へ引継、方針、ヲ以テ
年月、之、由リ、逐次、逐次、者へ引継、方針、ヲ以テ
見、可也、云々

滿發第六〇九三號

七月十日

(右吳存十平回字アリ)



業

運任大旨、其後集

韓國軍兵、安州及新義州ニシテ回營、新使ト設
 立シ、右三ヶ所ニ於テ先野戰、新使トノ善自、新使
 事務、取扱ハ本月三十日限リ、廢止、其後自軍兵
 外、古志、同國内ニ於テ先野戰、新使業務ニシテ、軍
 事ニ之ニ及テ、ナキモノ、團次、半名、引健、及、殊ニ、前ニテ、水
 ノ如キハ、ナリ、状況ニ於テ、先野戰、善自、新使ト、向テ、保
 立セシムルノ必要ヲ、認メ、右三ヶ所、向テ、軍備、取扱、及、新
 使、取扱、ノ、野戰、新使業務ヲ、撤消シ、之ヲ、半名、及、引
 健、取扱、ノ、野戰、新使業務トシ、夫レ、軍備、取扱、及、新
 使、取扱、ノ、野戰、新使業務トシ、夫レ、軍備、取扱、及、新

及、水、取扱、也

追テ引取流ニ於テハ
 暫使ノ施役ニ周ニ構國駐劄
 軍ヲ預和スルトキハ
 老若ト之レニ
 充クスル事ニ
 宜シ
 古重キ事也
 古重キ事也

史記



受領 滿貳肆第七五乙號



第一號

八月二十日

七月六日

七月六日

明治三十八年七月五日

兵站總監侯爵山縣有朋

陸軍大臣寺内正毅殿

兵站
大印

從來在韓國義州安州及新義州野戰
卸便局、於テ並普通卸便事務ヲ取扱居候
處、今般右ニテ所ニ並普通卸便局ヲ設置セラ
レ候、就テハ右野戰卸便局、並普通卸便及為
替事務力取扱ハ必要無之ニ付廢止、上其旨
達信有、通毅方取斗相成度

伊
周

國
民
の
利
益
に
對
し
て
の
事
業
に
對
し
て
の
事
業
に
對
し
て
の
事
業

の
旨
に
對
し
て

明治四十年一月廿五日

統監府通信管理局長池田十郎



陸軍省軍務局工兵課長井上仁郎殿

一月十二日滿往第五號依り別
紙回線圖及御送付候

進引後、回線異動ハ總戸地
方為同通信用、部令に止マリ
年一月、帳定ニ基キ幹線、新
設変更トシテ豫メ御商議ヲ要ス
ト認メタリモハ其之一義ニ候間御了

三
愛
第
五
八
号
三
三
二
日
本
本
領
事
館
照
會
文
書
第
一
号
三
三
二
日

0858

相成秀

統監府通信管理局

五
大
小
の
し
ん
り
の
し
ん
り

韓國軍用電信線引継。關スル收定事項

- 一、韓國内ニ於ケル帝國陸軍ノ管理ニ屬スル軍用電信線モ現ニ使用ニ當ル器具機械モ廳中品陸軍省ヨリ逋信省ニ引継クヤト
- 二、前項引継ニ關シテハ在韓國軍用電信機關管理ノ長ト同逋信省通信機關管理ノ長トノ間ニ於テ財產目錄ニ照シ受授ノ手續ヲモトシ此財產目錄ハ陸軍省ヨリ逋信省ヘ引継テ證スルモノトス

- 三、電報傳遞順序ハ軍事通信ヲ先ニシテ公眾通信ヲ後ニシテ但在韓國陸軍最高官憲ニ於テ差支ナシト認ムル軍事通信ハ此限ニアラス
- 四、戰時又ハ事變ニ際シ通信輻湊ノ為軍事官報ノ速達ヲ期シ難キ虞アルトキハ逋信省ハ陸軍省ノ要求ニ依リ或ル回線ヲ特定シテ軍事官報専用ニ供スルコト
- 五、戰時又ハ事變ニ際シ陸軍ニ於テ電信線路ノ新設若ハ回線變更ノ必要ヲ認ムルトキハ逋信省ハ陸軍省ノ要求ニ依リ之ニ應ズルノ設備ヲ

又ヨク

六

通信省。於韓國。於朝鮮線。凡電信電
話線。新設及修理。要費。更。多。於。此。下
陸軍省。同意。得。此。下

七

戰時。又。事。變。際。陸軍。於。韓國內。於
通信。對。於。國。於。前。限。必。要。之
國內。於。通信。取。扱。上。之。限。必。要。之
リ。認。之。通信。省。有。要。求。之。依。之
二。應。之。年。終。子。之。但。之。急。之。之。年。續
之。為。之。補。務。之。場。合。於。之。在。韓。國。陸。軍。最
高。官。憲。之。電。報。取。扱。之。關。之。面。陸。軍。省
之。總。之。通。信。省。之。要。求。之。一。面。在。韓。國。通。信。省

通信機關管理長區處等與之

陸軍對於軍隊行動關係上一時僅用電信
電報線之架設之要スルハ通信省ノ同意ヲ得
其所有之電線之ヲ添架シ又ハ最寄電通信
局所ニテ利用シテ之ヲ得ルハ但事急ニ要スル
ニ得ルニシテ其實施上同時ニ之ヲ通報

大正

在韓國陸軍官憲相互間及在韓國陸軍
官憲下在滿洲陸軍官憲下相互間
電報之著令肉然于無料トス

韓國軍用電信線引継ニ關スル協定事項

一 韓國國內ニ於ケル帝國陸軍ノ管理ニ屬スル軍用電信線並ニ現ニ使用シ居ル器具機材並ニ廳中品ノ陸軍省ヨリ逕信省ニ引継クコト

二 前項引継ニ關シテハ在韓國軍用電信機關ノ管理ノ長ト同逕信省通信機關管理ノ長トノ間ニ於テ財產目錄ニ照シ受授ノ手續ヲナスコト此財產目錄ハ陸軍軍部ヨリ逕信省ハ引継ヲ證スルモノトス

三 電報傳送ノ順序ハ軍事通信ヲ先ニ公衆

通信ヲ後ニス但在韓國陸軍最高官憲ニ
於テ差支レト認ケル軍事通信ニ此限ニ在ラ
ス

四 對時又ハ事變ニ際シ通信輻湊ノ為軍事

官報ノ傳達ヲ期シ難キ虞アルトキハ逕信省

ハ陸軍省ノ要求ニ依リ或ル回線ヲ特定シテ

軍事官報ノ專用ニ供スルコト

五 對時又ハ事變ニ際シ陸軍軍部ニ於テ電信

線路ノ新設若ハ回線変更ノ必要ヲ認ムルトキ

ハ逕信省ハ陸軍省ノ要求ニ依リ之ニ應ヘルノ

設備ヲナスコト

六 逕信省ニ於テ韓國ニ於ケル幹線タル電信電

朝鮮通信線工事報告書

七 話線ノ新設及回線ノ変更ヲナサントスルトキハ線
メ陸軍省ノ同意ヲ得ルコト

内ニ於ケル通信ニ對シ檢閲ヲ為スノ必要アリト認
メ又ハ韓國国内ニ於ケル通信取扱上ニ制限ヲ加フ

ルノ必要アリト認ケルトキハ通信省ハ陸軍省ノ要
求ニ依リ之ニ應スル手續ヲナスコト但シ事急ヲ要スル

八 陸軍軍部ニ於テ軍隊行動ノ關係上一時軍
用電信電話線ノ架設ヲ要スルトキハ通信省

ノ同意ヲ得テ其所管ノ電柱ニ之ヲ添架シ又ハ
最寄電信局所ニ之カ引込ヲナシ得ルコト

但シ事急ノ要ニ同意ヲ得ルノ猶存ナキハ、其實施ト同時ニ之ヲ返却ス

4980

電報取扱
長ニ区別
協定

トスルトキハ豫

北テ韓國

必要アリト認

制限ヲ加フ

軍省ノ要

但ニ軍急ヲ要

係上一時軍

信有

添架シ又ハ

ルト

之ヲ返致ス

4980

但ニ軍急ヲ要スル場合ニ於テハ在韓國陸軍軍高官堂ニ一般
電報取扱ニ関シ其韓國通信者通該軍官
長ニ区別ヲ与フルコト

九、
 互に神國陸軍官生を相互に及互に神國陸軍官生を互に
 官生と同一に存するを電報に及互に神國陸軍官生と同一に
 官生と同一に存するを電報に及互に神國陸軍官生と同一に

通
 信
 令

神國陸軍官生と同一に存するを電報に及互に神國陸軍官生と同一に

韓國軍用電信線路引繼に關スル
協定事項

一、韓國内ニ於ケル帝國陸軍ノ管理ニ屬スル
軍用電信線路ニ現ニ使用シ居ル器具
機械並ニ廳中品ハ陸軍省ヨリ逋信省
ニ引繼シコト

二、前項引繼に關シハ在韓國軍用電信
機關管理ノ長ト同逋信省通信機關管
理ノ長トノ間ニ於テ敷産目錄ニ照シ受授
ノ手續ヲナスコト但此敷産目錄ハ陸軍軍

- 三、部ヨリ逋信省ハ、引継ヲ證スルモノトス
 戰時事變ニ際シテハ在韓國陸軍最高官
 憲ハ軍事上必要ナル電信ノ新設變更
 及電報ノ取扱ニ關シ同逋信省通信機
 關管理ノ長ヲ指揮シ又一般通信ニシテ
 檢閲ノ必要アリト認ムル中ハ之ヲ施行スル
 コト
- 四、陸軍省ニ於テ軍事上必要ト認ムル電信ノ
 架設ヲ要求スル中ハ逋信省ハ之ニ應スルノ
 設備ヲナスコト
- 五、逋信省ニ於テ韓國ニ於テハ幹線タル電信

- 電話線、新設及回線、變更ヲナサント
 此片ハ豫メ陸軍省ノ同意ヲ得ルコト
- 六、陸軍軍部ニ於テ軍隊行動ノ關係上ニ
 時電信電話線ノ架設ヲ要スル中ハ之
 ヲ通信省所管ノ電柱ニ添架シ又既
 レノ通信局所ニモ之ヲ接続シ得ルコト
- 七、前項實施ノ場合ニハ在韓國陸軍最
 高官憲ハ豫メ在韓國通信機關管
 理長ニ通報スルコト
- 八、電報傳送ノ順序ハ軍事通信ヲ先
 スルコト

0872

九、在韓國及在滿州帝國陸軍官憲相互
間ニ發着スル電報、當今ノ内紛ニ無
料トスルヲト